

(様式第 10)

宮大医医第 312 号
平成 30 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人宮崎
池ノ上

宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
氏 名	国立大学法人 宮崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

宮崎大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地	電話 (0985) 85 - 1510
--------------------------------	-----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等 ① 循環器内科 ② 腎臓内科 ③ 消化器内科 ④ 血液内科 ⑤ 腫瘍内科 ⑥ 神経内科 ⑦ 感染症内科 ⑧ 呼吸器内科 ⑨ 内分泌・代謝・糖尿病内科 ⑩ リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有
外科と組み合わせた診療科名 ① 心臓血管外科 ② 消化器外科 ③ 形成外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
7産婦人科	⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科		

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有
歯科と組み合わせた診療科名 ① 歯科口腔外科・矯正歯科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

① リハビリテーション科	② 病理診断科	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36床	床	床	床	596床	632床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	367人	78人	404.6人	看護補助者	人	診療エックス線技師	人
歯科医師	14人	2人	15人	理学療法士	16人	臨床検査技師	50人
薬 剤 師	32人	人	32人	作業療法士	5人	衛生検査技師	1人
保 健 師	人	人	人	視能訓練士	11人	その他	人
助産師	26人	3人	27.8人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	573人	57人	616.4人	臨床工学士	14人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	47人
歯科衛生士	3人	4人	6.1人	歯科技工士	5人	事務職員	138人
管理栄養士	9人	人	9人	診療放射線技師	32人	その他の職員	34人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	29人	眼 科 専 門 医	12人
外 科 専 門 医	21人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	15人
小児科専門医	15人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	22人
泌尿器科専門医	9人	麻酔科専門医	23人
産婦人科専門医	10人	救急科専門医	11人
		合 計	195人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (鮫島 浩) 任命年月日 平成28年4月1日

平成24年4月1日～平成25年9月30日 (医療安全管理委員会委員)

平成25年10月1日～平成26年3月31日 (医療安全管理委員会委員長)

平成26年4月1日～現在 (医療安全管理委員会委員)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	526.4人	12人	538.4人
1日当たり平均外来患者数	1002.7人	92.2人	1094.9人
1日当たり平均調剤数			2,214剤
必要医師数			116人
必要歯科医師数			7人
必要薬剤師数			28人
必要(准)看護師数			306人

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	414.4m ²	鉄筋コンクリート	病床数	16床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 276.4m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	16床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 49m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	334 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) (主な設備) 検体前処理装置、生化学自動分析装置(TBA2000FR, c16000,)、全自動血糖分析装置、グリコヘモグロビン分析計、自動電気泳動装置、全自動化学発光免疫測定装置(i2000SR, cobas8000, i1000, e411)			
細菌検査室	87.2m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動薬剤感受性装置、自動血液培養装置、菌種同定質量分析装置、自動染色装置、P3検査室			
病理検査室	68.5m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 組織自動染色装置、細胞診自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色装置、サイトスピン、TinPrep、Fish装置、パラフィン包埋作製装置、遠心分離機、ミクロトーム、ドラフト装置、セーフティキャビネット、恒温器、伸展器、温浴器、純粋製造装置、顕微鏡、電子天秤、VOLTEX			
病理解剖室	52.5m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、ストレッチャー、ホルマリン希釈装置、ホルマリン排気バケツBOX、セーフティーラック、解剖用骨切断鋸装置、パソコン(CUMNAVI用)、電子天秤、電子計量器、オートクレーブ、解剖器具一式、器具収納棚			
研究室	2650m ²		(主な設備) パソコン、書庫、机 ほか			
講義室	553 m ²		室数	2室	収容定員	475人
図書室	1908 m ²		室数	6室	蔵書数	124,866冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	93.4%	逆紹介率	64.9%
算出根拠	A: 紹介患者の数	9,920人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,649人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,084人		
	D: 初診の患者の数	11,778人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
後 信	九州大学病院	○	医療安全管理識見者	無	1
大久保 哲	宮崎産業経営大学		法律に関する識見者	無	1
藤久保亜希	宮崎市子育て支援センター		医療を受ける者	無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 本院 HP に公開	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	18人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
難治性高コレステロール血症に随伴して重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェシス療法	2人
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	難治性気分障害に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 精神療法・薬物療法等の治療に抵抗性のうつ病をはじめとする気分障害に対し、患者の同意を得たうえで経頭蓋療法を行っている。			
医療技術名	網膜変性患者の遺伝子解析	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 網膜変性患者の疾患遺伝子を検索し、原因を解明する。			
医療技術名	妊娠22～23週の超未熟児に対する集学的集中治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 妊娠22～23週で出生した未熟児は生存限界であり、呼吸循環管理に加え、消化管、皮膚、感染症対策など集学的な管理と緻密なケアとを必要とし、妊娠24週以降とは別レベルの高度医療が必要である。			
医療技術名	癒着胎盤の術前診断と周術期管理	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 妊娠中期から超音波画像、MRI画像を用いた画像診断と危機的出血を回避するための集学的(輸血部、放射線部、手術部、泌尿器科、麻酔科等)管理。			
医療技術名	ケミカルピーリング	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 尋常性ざ瘡等の疾患に対し行う。			
医療技術名	円形脱毛症へのDPCP療法	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 難治性の円形脱毛症に対し、DPCPを用いた免疫賦活療法を行っている。			
医療技術名	酒査皮に対する色素レーザー療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 酒査皮に対し、レーザー療法を行う。			

医療技術名	口腔癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
口腔癌症例において、頸部リンパ節への転移の有無を、センチネルリンパ節理念により術中に同リンパ節を固定し摘出し、迅速に病理組織学的に転移しているか否かを診断し、その結果により頸部郭清術を施行するか否かを決定する。			
医療技術名	在胎22週～24週で出生した児に対する全身管理	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
生育の限界にあるこの週数で出生した児に対する集学的治療。			
医療技術名	Ex utero intarapartum treatment	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
胎盤循環を保ったまま胎児の外科的処置を行う集学的治療。			
医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
新生児の腎不全に対して行う透析療法。			
医療技術名	遺伝性疾患患者に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	104人
当該医療技術の概要			
遺伝性疾患患者ならびにその家族に対し、疾患の遺伝性、再発率、サポートグループの情報提供を行うとともに、心理的ケアを行う。			
医療技術名	中耳真珠腫に対する前鼓室開放術	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要			
中耳真珠腫の術後再発予防策としての追加術式。			
医療技術名	難聴遺伝子解析	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
保険診療で検出されなかった遺伝子変異を解析。			
医療技術名	骨導インプラント	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
先天性外耳道閉鎖症患者2例に対し、Baha Attract 及びBone bridge植込み術を行った。両Deviceとも、従来のBahaの欠点であるインプラントの体表露出がないように改良されている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
3	56	球脊髄性筋萎縮症	65	ベーチェット病	65
20	57	筋萎縮性側索硬化症	30	特発性拡張型心筋症	30
2	58	脊髄性筋萎縮症	15	肥大型心筋症	15
0	59	原発性側索硬化症	0	拘束型心筋症	0
1	60	進行性核上性麻痺	18	再生不良性貧血	18
76	61	パーキンソン病	1	自己免疫性溶血性貧血	1
1	62	大脳皮質基底核変性症	1	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
5	63	ハンチントン病	20	特発性血小板減少性紫斑病	20
0	64	神経有棘赤血球症	0	血栓性血小板減少性紫斑病	0
2	65	シャルコー・マリー・トゥース病	6	原発性免疫不全症候群	6
65	66	重症筋無力症	9	IgA腎症	9
0	67	先天性筋無力症候群	12	多発性囊胞腎	12
34	68	多発性硬化症/視神経脊髄炎	10	黄色靱帯骨化症	10
20	69	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	68	後縦靱帯骨化症	68
0	70	封入体筋炎	4	広範脊柱管狭窄症	4
2	71	クロー・深瀕症候群	71	特発性大腿骨頭壊死症	71
12	72	多系統萎縮症	16	下垂体性ADH分泌異常症	16
19	73	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	3	下垂体性TSH分泌亢進症	3
9	74	ライソゾーム病	42	下垂体性PRL分泌亢進症	42
0	75	副腎白質ジストロフィー	6	クッシング病	6
9	76	ミトコンドリア病	0	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
20	77	もやもや病	32	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	32
1	78	プリオン病	117	下垂体前葉機能低下症	117
0	79	亜急性硬化性全脳炎	0	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
0	80	進行性多巣性白質脳症	0	甲状腺ホルモン不応症	0
5	81	HTLV-1関連脊髄症	3	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
0	82	特発性基底核石灰化症	1	先天性副腎低形成症	1
7	83	全身性アミロイドーシス	3	アジソン病	3
0	84	ウルリッヒ病	84	サルコイドーシス	84
0	85	遠位型ミオパチー	26	特発性間質性肺炎	26
0	86	ベスレムミオパチー	18	肺動脈性肺高血圧症	18
0	87	自己食食空胞性ミオパチー	0	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
0	88	シュワルツ・ヤンベル症候群	9	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	9
28	89	神経線維腫症	2	リンパ脈管筋腫症	2
27	90	天疱瘡	16	網膜色素変性症	16
1	91	表皮水疱症	2	バッド・キアリ症候群	2
19	92	膿疱性乾癬(汎発型)	0	特発性門脈圧亢進症	0
1	93	スティーヴンス・ジョンソン症候群	23	原発性胆汁性肝硬変	23
0	94	中毒性表皮壊死症	3	原発性硬化性胆管炎	3
13	95	高安動脈炎	14	自己免疫性肝炎	14
0	96	巨細胞性動脈炎	210	クローン病	210
13	97	結節性多発動脈炎	274	潰瘍性大腸炎	274
25	98	顕微鏡的多発血管炎	3	好酸球性消化管疾患	3
11	99	多発血管炎性肉芽腫症	0	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
8	100	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
2	101	悪性関節リウマチ	0	腸管神経節細胞減少症	0
3	102	パージャール病	0	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
1	103	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	CFC症候群	0
163	104	全身性エリテマトーデス	0	コステロ症候群	0
76	105	皮膚筋炎/多発性筋炎	0	チャーシ症候群	0
71	106	全身性強皮症	0	クリオピリン関連周期熱症候群	0
28	107	混合性結合組織病	1	全身型若年性特発性関節炎	1
38	108	シェーグレン症候群	0	TNF受容体関連周期性症候群	0
11	109	成人スチル病	1	非典型性溶血性尿毒症症候群	1
2	110	再発性多発軟骨炎	0	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	2	163	特発性後天性全身性無汗症	3
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	2
122	脳炎ヘモジドリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	1	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムツェン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症		0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症		1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病		0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミロン血症		0
215	ファロー四徴症	3	263	脳腫黄色腫症		0
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症		0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症		0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱		0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群		0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群		0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群		0
222	一次性ネフローゼ症候群	20	270	慢性再発性多発性骨髄炎		0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎		7
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症		0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症		0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	274	骨形成不全症		2
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症		0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症		1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病		0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)		0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)		0
232	カーニー複合	0	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)		0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群		1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血		0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆		1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血		0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血		0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血		0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群		1
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII		1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群		0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症		0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)		0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症		0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残		0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア		0
247	イソ吉草酸血症	1	295	乳幼児肝巨大血管腫		0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症		1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群		0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎		0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症		0
252	リジン尿性蛋白不耐症	1	300	IgG4関連疾患		7
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー		0
254	ボルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症		1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群		0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴		0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫		0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎		7

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	カナバン病	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
0	進行性白質脳症	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
0	進行性ミオクローヌスてんかん	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
0	先天異常症候群	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
0	先天性三尖弁狭窄症	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
0	先天性僧帽弁狭窄症	324	メチルグルタコン酸尿症	0
0	先天性肺静脈狭窄症	325	遺伝性自己炎症疾患	0
0	左肺動脈右肺動脈起始症	326	大理石骨病	1
0	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
0	カルニチン回路異常症	328	前眼部形成異常	0
0	三頭酵素欠損症	329	無虹彩症	0
0	シリン欠損症	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 後発医薬品使用体制加算2
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 病棟薬剤業務実施加算2
・ 特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1)	・ データ提出加算2及び注2に係る加算(提出データ評価加算)
・ 特定機能病院入院基本料 精神病棟(13対1)及び注4に係る加算(重度認知症加算)	・ 入退院支援加算1
・ 超急性期脳卒中加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 診療録管理体制加算1	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 医師事務作業補助体制加算1(15対1)	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上)	・ 救命救急入院料1
・ 看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・ 特定集中治療室管理料2及び注2に係る加算(小児加算)
・ 看護補助加算2	・ 総合周産期特定集中治療室管理料(1 母体・胎児集中治療室管理料)
・ 療養環境加算	・ 総合周産期特定集中治療室管理料(2 新生児集中治療室管理料)
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 無菌治療室管理加算1	・ 小児入院医療管理料2及び注2に係る加算(プレイルーム加算)
・ 無菌治療室管理加算2	
・ 緩和ケア診療加算	
・ 精神科身体合併症管理加算	
・ 精神科リエゾンチーム加算	
・ 摂食障害入院医療管理加算	
・ 栄養サポートチーム加算	
・ 医療安全対策加算1	
・ 感染防止対策加算1及び注2に係る加算(感染防止対策地域連携加算)	
・ 患者サポート体制充実加算	
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ ハイリスク妊娠管理加算	
・ ハイリスク分娩管理加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ がん患者指導管理料イ	・ 胎児心エコー法
・ がん患者指導管理料ロ	・ ヘッドアップティルト試験
・ がん患者指導管理料ハ	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 外来緩和ケア管理料	・ 神経学的検査
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ 補聴器適合検査
・ 院内トリアージ実施料	・ ロービジョン検査判断料
・ 外来放射線照射診療料	・ コンタクトレンズ検査料1
・ ニコチン依存症管理料	・ 内服・点滴誘発試験
・ 療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・ CT透視下気管支鏡検査加算
・ ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・ 有床義歯咀嚼機能検査1のイ
・ がん治療連携計画策定料	・ 有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 精密触覚機能検査
・ 薬剤管理指導料	・ ポジトロン断層撮影
・ 医療機器安全管理料1	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ 医療機器安全管理料2	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ 外来化学療法加算1
・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ 無菌製剤処理料
・ 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・ 遺伝学的検査	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・ 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・ 検体検査管理加算(Ⅳ)	・ がん患者リハビリテーション料
・ 国際標準検査管理加算	・ 歯科口腔リハビリテーション料2
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 救急患者精神科継続支援料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 医療保護入院等診療料	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 硬膜外自家血注入	・ 経カテーテル大動脈弁置換術
・ 人工腎臓	・ 経皮的中心筋焼灼術
・ 導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ 手術用顕微鏡加算	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・ 口腔粘膜処置	・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・ う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・ 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・ CAD/CAM冠	・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・ 歯科技工加算1及び2	・ 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・ センチネルリンパ節加算	・ バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・ 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ 体外衝撃波胆石破砕術
・ 後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・ 腹腔鏡下肝切除術
・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・ 体外衝撃波膵石破砕術
・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ 緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・ 生体腎移植術
・ 網膜再建術	・ 膀胱水圧拡張術
・ 人工中耳植込術	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ 人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 喉頭形成手術(甲状軟骨固定器具を用いたもの)	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術
・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・ 輸血管理料 I

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 輸血適正使用加算	
・ 貯血式自己血輸血管理体制加算	
・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・ 歯周組織再生誘導手術	
・ 手術時歯根面レーザー応用加算	
・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・ 歯根端切除手術の注3	
・ レーザー機器加算	
・ 麻酔管理料(I)	
・ 麻酔管理料(II)	
・ 放射線治療専任加算	
・ 外来放射線治療加算	
・ 高エネルギー放射線治療	
・ 強度変調放射線治療(IMRT)	
・ 画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
・ 体外照射呼吸性移動対策加算	
・ 定位放射線治療	
・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・ 画像誘導密封小線源治療加算	
・ 保険医療機関間の連携による病理診断	
・ 病理診断管理加算2	
・ 悪性腫瘍病理組織標本加算	
・ クラウン・ブリッジ維持管理料	
・ 歯科矯正診断料	
・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・有床義歯咀嚼機能検査	・
・硬膜外自家血注入	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	150回/年
剖検の状況	剖検症例数 25 例 / 剖検率 7.5 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ビッグアンジオテンシン-25の測定意義と組織アンジオテンシンII生成機構の解明	永田 さやか	循環器内科	1,170,000	補 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
アタ心房組織に存在する新規循環調節ペプチドの系統的探索	北村 和雄	循環器内科	1,040,000	補 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
Big angiotensin-25の生体内での役割と診断薬としての可能性	北村 和雄	循環器内科	3,380,000	補 科学研究費補助金+科学研究費助成金(文部科学省)
難治性炎症性腸疾患を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施	北村 和雄	循環器内科	170,300,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
インフリキシマブ治療抵抗性クローン病患者を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施	北村 和雄	循環器内科	70,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
アドレノメデュリンのトランスレーショナルリサーチ	北村 和雄	循環器内科	1,000,000	委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
AMを用いたCIN発祥抑制・脳梗塞治療戦略の確立(探索的臨床試験)	北村 和雄	循環器内科	800,000	委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
難治性血管炎に関する調査研究	藤元 昭一	腎臓内科	410,000	補 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
難治性腎障害に関する調査研究	藤元 昭一	腎臓内科	300,000	補 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
宮崎県健康診断尿潜血陽性者中の診断スコア法の検証研究	藤元 昭一	腎臓内科	1,000,000	委 学校法人順天堂 順天堂大学
ANCA関連血管炎国際共同臨床試験(PEXIVAS試験)	藤元 昭一	腎臓内科	300,001	委 学校法人杏林学園 杏林大学
CKD疫学調査分科会担当 特定健診コホートの解析	藤元 昭一	腎臓内科	199,999	委 国立大学法人筑波大学
職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究	永田 賢治	肝臓内科	250,000	補 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
HTLV-1キャリアにおける遺伝子変異の解析とその臨床的意義の解明	日高 智徳	血液内科	1,560,000	補 学術研究助成基金助成金(文部科学省)
創薬に向けた、CALR変異とfibrocyteに着目する骨髄増殖性腫瘍研究	下田 和哉	血液内科	6,760,000	補 科学研究費補助金(文部科学省)
成人T細胞白血病リンパ腫に対する新規テラーメイド治療	下田 和哉	血液内科	5,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)最適化医療の確立とハイリスクキャリアの同定	下田 和哉	血液内科	30,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人T細胞白血病リンパ腫に対するレナリドミド作用機序の解明を目指した研究	下田 和哉	血液内科	1,000,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
遺伝子改変マウスを用いたHTLV-1関連疾患の病態解明および新規治療法探索	亀田 拓郎	血液内科	1,560,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
CALRが関わる造血シグナル伝達と、その破綻による骨髄増殖性腫瘍発症機序の解明	幣 光太郎	血液内科	1,560,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
正常造血及びMPN発症におけるCalreticulinの役割解明	幣 光太郎	血液内科	130,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
成人T細胞性白血病・リンパ腫における遺伝子変異の解析とその意義の解明	久富木 庸子	血液内科	1,560,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
血小板造血および血小板機能シグナルにおけるRUNX1の役割の解明	下田 晴子	血液内科	650,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
慢性砒素中毒が神経系に与える影響の研究	望月 仁志	神経内科	1,040,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
がん特異的プロテアーゼによる尿中シェディング産物を応用した肺腺癌早期診断法の確立	松元 信弘	呼吸器内科	1,560,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
肺癌におけるグレリンの分子生物学的意義と緩和期肺癌患者へのグレリン投与の検討	飯干 宏俊	呼吸器内科	1,560,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
呼吸器悪液質発症に関与する脂肪細胞由来因子の同定とグレリンの抗悪液質作用機序解明	坪内 拓伸	呼吸器内科	1,560,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
肺発生時の上皮細胞運命制御とプログラムされた細胞老化におけるPtenの役割	三浦 綾子	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,560,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
内在性antisense RNAによるセレノプロテインP翻訳制御機構の解析	三田 雄一郎	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,300,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
新規生理活性ペプチドの固定と摂食調節機序の解明	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	5,460,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
細胞老化と細胞骨格調節機構から紐解く肺線維症発症機序の解明	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,430,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	150,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
自律神経・ペプチド連関を基軸とするエネルギー代謝と免疫制御機構の解明	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	49,826,556	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
独創的な尿中蛋白質断片解析法により同定した高感度の早期肺癌・膵臓癌診断マーカーの検診への導入を目指した多施設検証	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	34,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

超高感度尿中微量蛋白質解析技術を用いた肺癌と膵臓癌の新規早期診断マーカー開発研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	36,275,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
消化管ペプチドと循環器との機能連関に関する研究	中里 雅光	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,000,000	委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
高脂肪食による神経の炎症から肥満を来す機序の解析	迫田 秀之	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,300,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
新規グラニン由来ペプチドNERP-4の摂食エネルギー・糖代謝機能の検討	山口 秀樹	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,430,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
免疫抑制性樹状細胞に発現する新規免疫チェックポイント分子の機能的同定とこれを標的としたがん免疫治療法の開発	佐藤 克明	膠原病・感染症内科	22,800,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
レーザーマイクロダイセクション法による画期的な病原体診断法の開発	高城 一郎	膠原病・感染症内科	2,080,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
HAMならびにHTLV-1陽性難治性疾患に関する国際的な総意形成を踏まえた診療ガイドラインの作成	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	350,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
HTLV-1の疫学研究及び総合対策に資する研究	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	1,400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ヒトとウイルスのゲノム情報と臨床情報の統合によるHTLV-1関連疾患の診療支援全国ネットワークの確立	岡山 昭彦	膠原病・感染症内科	3,500,000	委	国立大学法人京都大学
エクソソーム誘導性シグナルを介すHTLV-1による関節リウマチ病態修飾機構の解明	梅北 邦彦	膠原病・感染症内科	1,430,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
高浸淫地域における SFTS感染症の血清学的迅速診断検査法の開発と臨床応用	松田 基弘	膠原病・感染症内科	2,080,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
炎症性腸疾患を対象としたアブレメチン療法の開発における補完研究	芦塚 伸也	消化器内科	1,560,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
脳に発現する免疫分子MHCの注意欠如・多動性障害への関与	中原 大一郎	精神科	2,279,721	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
光遺伝子学を用いたうつ病グリアモデルの検討	蛭原 功介	精神科	2,210,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
熊本地震時の近隣県支援者の実態把握と受援システムの構築と検証に関する研究	松尾 寿栄	精神科	2,210,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
光遺伝学を用いて解析するレボドパ誘発性不随意運動におけるアストロサイトの機能関与	石田 康	精神科	1,690,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
学校教員における職業性ストレスの評価と評価票の開発	直野 慶子 (長友慶子)	精神科	2,340,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
白血病幹細胞の代謝プログラミングを標的とした治療法の開発	斎藤 祐介	小児科	1,950,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)

小児期発症脊髄性筋萎縮症に対するバルプロ酸ナトリウム多施設共同医師主導治験	池田 俊郎	小児科	845,000	委	学校法人東京女子医科大学
がん幹細胞の代謝ストレス耐性機構を標的とした治療法の開発	齋藤 祐介	小児科	9,485,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
尿中ボウマン嚢上皮細胞mRNAによる糸球体腎炎の非侵襲的バイオマーカーの確立	此元 隆雄	小児科	1,560,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
網羅的遺伝子解析をとおして固定した家族性白血病因遺伝子の機能解析	盛武 浩	小児科	1,300,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
CGD腸炎の患者選定、治験実施体制の整備、治験の実施	盛武 浩	小児科	1,500,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
小児骨髄系腫瘍に対する標準的治療法の確立	盛武 浩	小児科	260,000	委	国立大学法人京都大学
慢性肉芽腫症マウスを用いたPEG-DAO酵素補充療法の開発	布井 博幸	小児科	130,758	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
消化器癌患者の予後改善のための研究及び支援	七島 篤志	肝胆膵外科	1,000,000	委	串間市民病院
レジリエンス・エンジニアリング理論の医療の質・安全における実用化に関する研究	綾部 貴典	呼吸器・乳腺外科	195,000	補	科学研究費補助金+科学研究費助成金(文部科学省)
がん微小環境を標的とした間質性肺炎合併肺癌に対する革新的治療法の構築	前田 亮	呼吸器・乳腺外科	3,013,479	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
健康に与えるロコモティブシンドロームの影響に関する研究	帖佐 悦男	整形外科	7,788,278	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
特発性大腿骨頭壊死症の医療水準及び患者のQOL向上に関する大規模多施設研究	帖佐 悦男	整形外科	100,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
明らかな骨量増加を呈するTmem161a遺伝子欠損マウスの機能解析	関本 朝久	整形外科	1,820,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
肩関節変性疾患の病態解明	谷口 昇	整形外科	1,560,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
CRPCにおけるCAVEOLIN-1、2関連シグナル伝達を介した新規治療法の探索	賀本 敏行	泌尿器科	1,300,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
転移性前立腺癌に対するGnRHアンタゴニスト単剤療法とGnRHアンタゴニストCAB療法のランダム化比較試験	賀本 敏行	泌尿器科	108,000	委	一般社団法人九州臨床研究支援センター
腎癌骨転移における膜結合型タンパクの機能解析と新規治療法の確立	向井 尚一郎	泌尿器科	1,300,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
患者由来ゼノグラフトモデルを用いた前立腺癌新規治療薬効果予測マーカーの開発	寺田 直樹	泌尿器科	2,600,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)

アドレノメデュリンの虚血性視神経症への有効性の検討	中馬 秀樹	眼科	3,900,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
X連鎖性網膜色素変性症の治療の試みと原因の解明	直井 信久	眼科	1,040,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
プロモントリーテストに替わる外耳道/鼓膜電気刺激聴覚検査法の開発	東野 哲也	耳鼻咽喉・頭頸部外科	2,210,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
難治性聴覚障害に関する調査研究	東野 哲也	耳鼻咽喉・頭頸部外科	500,000	補	厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)
日向夏みかんから分離した水溶性高分子生理活性多糖類の固定とその作用機序の研究	山口 昌俊	産科・婦人科	1,300,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
ユーンク肉腫に対する新規チロシンキナーゼ阻害薬の有効性評価	澤 大介	産科・婦人科	1,170,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
①妊婦リスク診断法開発②「安心で安全な妊娠・出産」に向けた母子感染の感染予防と妊婦診療マニュアルの普及と母子医療相	鮫島 浩	産科・婦人科	780,000	委	国立大学法人東京大学
地域での産科医療を支援するための胎児心拍数共同監視システム	鮫島 浩	産科・婦人科	1,000,000	委	串間市民病院
FDG-PET/CTの不明熱診断への応用ーガリウムSPECTとの比較研究	水谷 陽一	放射線科	100,000	委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
定量的磁化率マップによる脳アミロイドの定量化および画像化	平井 俊範	放射線科	1,109,380	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
”主幹動脈収縮説”を基盤としたもやもや病早期診断/重症化予測法の確立	平井 俊範	放射線科	39,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
脳動脈瘤塞栓術におけるHydrogel coilの塞栓効果に関する多施設共同無作為比較試験(HYBRID study)	平井 俊範	放射線科	147,420	委	公益財団法人先端医療振興財団
MRIを用いた水俣病患者の脳構造の統計学的解析	平井 俊範	放射線科	649,598	委	日本エヌ・ユー・エス株式会社
局所蛋白過剰発現による深部静脈血栓の形成機序解析と治療法の確立	古小路 英二	放射線科	1,040,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
肺ラジオ波焼灼術効果判定におけるトリプトファン代謝物質の有効性に関する基礎研究	中田 博	放射線科	780,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
神経変性疾患に対する定量的磁化率マッピングの有用性の検討	東 美菜子	放射線科	1,300,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
脳腫瘍に対するNODDIの有用性	門田 善仁	放射線科	1,430,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
PET分子画像診断によるEGFR阻害癌分子標的薬個別化医療	小川 衣未	放射線科	260,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)

オレキシン神経活動に及ぼす麻酔薬の影響	須江 宣俊	麻酔科	2,600,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
ヒト臍帯動脈におけるmyogenic response の検討	恒吉 勇男	麻酔科	650,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
神経膠芽腫に対する多剤併用分子標的療法の確立	渡邊 孝	脳神経外科	1,799,600	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
毛様細胞性星細胞腫における増殖血管内皮の起源の解明	竹島 秀雄	脳神経外科	1,040,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
人工呼吸器管理患者における高感度濁度計の口腔清潔度評価としての有用性の検討	井川 加織	歯科口腔外科・矯正歯科	1,040,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
NF-κB活性化遺伝子発現に基づいた新規非侵襲的OSCC転移診断法の確立	近藤 雄大	歯科口腔外科・矯正歯科	1,950,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
日本人型糖尿病モデルラットの軟食飼育が糖尿病と咀嚼器官の発達と老化に及ぼす影響	永田 順子	歯科口腔外科・矯正歯科	1,820,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
口腔顎顔面筋刺激が顎口腔機能異常患者の睡眠・ストレスに及ぼす効果の検討	温水 佳世子	歯科口腔外科・矯正歯科	1,560,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
骨芽細胞由来液性因子によるオーダーメイド骨再生医療のための基盤形成	金氏 毅	歯科口腔外科・矯正歯科	2,210,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
口腔扁平上皮癌における炎症性発癌機構の解明	長井 健太郎	歯科口腔外科・矯正歯科	1,170,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
脳卒中寝たきりを半減させるための研究及び支援	落合 秀信	救急科	1,000,000	委	串間市民病院
西諸地区における救急医療のさらなる活性化に関する研究	落合 秀信	救急科	1,000,000	委	小林市立病院
個人を中心とするヘルスケアデータの活用に関する研究	荒木 賢二	医療情報部	1,950,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
医療-介護のシームレスな情報共有支援方法とそのトラストの検討	鈴木 斎王	医療情報部	6,110,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
重症敗血症における臓器リモデリングの検討	矢野 武志	集中治療部	650,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
冠動脈硬化巣の血栓性リスクを反映する非侵襲的画像診断の開発	黒岩 靖淳	病理診断科	1,820,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
動脈硬化の治療戦略に役立つ核医学イメージング法:EBMのための実験的研究	山下 篤	病理診断科	65,000	補	科学研究費補助金+科学研究費助成金(文部科学省)
動脈硬化性血栓症における内因系凝固因子の役割	山下 篤	病理診断科	1,690,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)

病理組織学、網羅的代謝解析、レオロジンを融合したアテローム血栓症の発症機序の解明	浅田 祐士郎	病理診断科	4,550,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
動脈硬化の治療戦略に役立つ核医学イメージング法:EBMのための実験的研究	浅田 祐士郎	病理診断科	65,000	補	科学研究費補助金+科学研究費助成金(文部科学省)
生体イメージング技術の開発・検証	浅田 祐士郎	病理診断科	780,000	委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
腸管発癌におけるセリンプロテアーゼ活性制御の意義に関する研究	川口 真紀子	病理診断科	1,950,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
肺癌の浸潤・転移機構における膜型セリンプロテアーゼインヒビターの機能解析	田中 弘之	病理診断科	1,950,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
膠芽腫の悪性形質に対する多面的アプローチ	福島 剛	病理診断科	2,080,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)
細胞膜結合型セリンプロテアーゼインヒビターによる上皮完全性維持と癌抑制機構	片岡 寛章	病理診断科	4,290,000	補	科学研究費補助金(文部科学省)
AI等の利活用を見据えた病理組織デジタル画像(WSI)の収集基盤整備と病理支援システム開発	佐藤 勇一郎	病理診断科	5,400,000	委	一般社団法人日本病理学会
神経接着分子Caspr4を介した神経精神疾患における新規治療戦略	池田 龍二	薬剤部	130,000	補	学術研究助成基金助成金(文部科学省)

計 115

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Johji Kato, Yukiko Kawagoe, Jian g Danfen, et al.	循環器内科	Plasma levels of natriuretic peptides and year-by-year blood pressure variability: a population-based study.	Journal of Human Hypertension・2017 Aug.	Original Article
2	Yunosuke Matsuura, Atsushi Yamashita, Yan Zhao, et al.	循環器内科	Altered glucose metabolism and hypoxic response in alloxan-induced diabetic atherosclerosis in rabbits.	PLoS One・2017 Apr.	Original Article
3	Sayaka Nagata, Moto o Yamasaki, Kazuo Kitamura, et al.	循環器内科	Anti-Inflammatory Effects of PEGylated Human Adrenomedullin in a Mouse DSS-Induced Colitis Model.	Drug Dev Res・2017 June	Original Article
4	Toshihiro Tsuruda, Kazuo Kitamura	循環器内科	Getting osteoporotic fracture risk into vascular structure and function -Do you know your FRAX® score?-	Circulation Journal・2017 May	Review
5	Toshihiro Tsuruda, Naomi Shinohara, Miyuki Ogata, et al.	循環器内科	Transient Left Ventricular Contractile Dysfunction during the Treatment of Rhabdomyolysis: A Case Report and Literature Review.	Internal Medicine・2017 Oct.	Case report

6	Toshihiro Tsuruda, Shigeki Nagamachi, Masashi Yamaguchi, et al.	循環器内科	¹⁸ F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography 10 Days Before Onset of Aortic Dissection.	Circulation Journal•2018 Mar.	Others
7	Kenji Kuwasako, Kazuo Kitamura, Sayaka Nagata, et al.	循環器内科	β -arrestins negatively control human adrenomedullin type 1-receptor internalization.	Biochemical and Biophysical Research Communications•2017 May	Original Article
8	Yuji Sato, Shouichi Fujimoto, Tsuneo Konta, et al.	腎臓内科 / 血液浄化療法部	Body shape index: Sex-specific differences in predictive power for all-cause mortality in the Japanese population.	PLoS One•2017 May (オンライン)	Original Article
9	Akihiro Fukuda, Akihiro Minakawa, Yuji Sato, et al.	腎臓内科 / 血液浄化療法部	Urinary podocyte and TGF- β 1 mRNA as markers for disease activity and progression in anti-glomerular basement membrane nephritis.	Nephrology Dialysis Transplantation•2017 Nov.	Original Article
10	Chihiro Kawagoe, Yuji Sato, Tatsunori, Toida, et al.	腎臓内科 / 血液浄化療法部	N-terminal-pro-B-type-natriuretic peptide associated with 2-year mortality from both cardiovascular and non-cardiovascular origins in prevalent chronic hemodialysis patients.	Renal Failure•2018 Feb.	Original Article
11	Masao Kikuchi, Larysa Wickman, Raja Rabah, et al.	腎臓内科	Podocyte number and density changes during early human life.	Pediatr Nephrol•2017 May	Original Article

12	Ryuzoh Nishizono, Masao Kikuchi, Su Q. Wang, et al.	腎臓内科	FSGS as an Adaptive Response to Growth-Induced Podocyte Stress.	J Am Soc Nephrol•2017 Oct.	Original Article
13	Yuji Sato, Toshihide Hayashi, Nobuhiko Joki, et al.	腎臓内科	Association of Lead aVR T-wave Amplitude With Cardiovascular Events or Mortality Among Prevalent Dialysis Patients.	Ther Apher Dial•2017 June	Original Article
14	Koji Nakashima, Haruhiko Inatsu, Kazuo Kitamura.	がん診療部	Primary Cardiac Leiomyosarcoma: A 27-Month Survival with Surgery and Chemotherapy.	Internal Medicine•2017 Aug.	Case report
15	Yoshinori Ozono, Kenji Nagata, Satoru Hasuike, et al.	肝臓内科	Efficacy and safety of sofosbuvir and ledipasvir in japanese patients aged 75 years or over with hepatitis C genotype 1.	World Journal of Hepatology. •2017 Dec.	Original Article
16	Yoshinori Ozono, Yuka Takaishi, Mai Tsuchimochi, et al.	肝臓内科	Prediction of Sustained Virological Response to Telaprevir/Simeprevir-Based Triple Therapy in Patients with Genotype 1 Hepatitis C Virus Using Super-Early Viral Response within 2 Weeks.	Journal of Liver. •2017 July	Original Article
17	Kazuya Shimoda, Kotaro Shide, Takuro Kameda.	血液内科	Mutant calreticulin causes essential thrombocythemia.	Oncotarget •2017 Oct.	Review

18	Masaaki Sekine, Yoko Kubuki, Takuro Kameda, et al.	血液内科	Effects of mogamulizumab in adult T-cell leukemia/lymphoma in clinical practice.	European journal of haematology. •2017 May	Original Article
19	Kotaro Shide, Takuro kameda, Takumi Yamaji, et al.	血液内科	Calreticulin mutant mice develop essential thrombocythemia that is ameliorated by the JAK inhibitor ruxolitinib.	Leukemia. •2017 May	Original Article
20	Takumi Yamaji, Shide Kotaro, Takuro Kameda, et al.	血液内科	Loss of Tyrosine Kinase 2 Does Not Affect the Severity of Jak2V617F-induced Murine Myeloproliferative Neoplasm	Anticancer Research •2017 July	Original Article
21	Hitoshi Mochizuki, Nobuyuki Ishii, Kazutaka Shiomi, et al.	神経内科	Clinical features and electrocardiogram parameters in Parkinson's disease.	Neurol Int •2017 Dec. (オンライン)	Original Article
22	Nobuyuki Ishii, Hironobu Tsubouchi, Ayako Miura, et al.	神経内科	Ghrelin alleviates paclitaxel-induced peripheral neuropathy by reducing oxidative stress and enhancing mitochondrial anti-oxidant functions in mice	Eur J Pharmacol •2018 Jan.	Original Article
23	Ai Suzuki, Hitoshi Mochizuki, Yuka Ebihara, et al.	神経内科	Body mass index and severity of parkinsonism in multiple system atrophy	Neurol Int •2017 Aug.	Original Article

24	Katsuya Sakai, Hitoshi Mochizuki, Kosuke Mochida, et al.	神経内科	A case of nivolumab-induced severe mononeuropathy multiplex and rhabdomyolysis	Case Reports in Medicine•2017 Oct. (オンライン)	Case report
25	Nobuyuki Ishii, Hitoshi Mochizuki, Katsuya Sakai, et al.	神経内科	Parkinsonism and high-intensity midbrain lesions on T2-weighted imaging in hepatic encephalopathy: a case report	Neurol Sci•2017 Aug.	Case report
26	Akitoshi Taniguchi, Hitoshi Mochizuki, Atsushi Yamashita, et al.	神経内科	Spinal cord anteroposterior atrophy in HAM/TSP: magnetic resonance imaging and neuropathological analyses	J Neurol Sci•2017 Oct.	Original Article
27	Ayako Matsuo, Nobuhiro Matsumoto, Akiko Kitamura, et al.	呼吸器内科	Desquamative interstitial pneumonia complicated by diffuse alveolar haemorrhage	Respirol Case Rep•2018 Feb.	Case report
28	Nobuhiro Matsumoto, Hironobu Tsubouchi, Yoshifumi Imazu, et al.	呼吸器内科	Clinical application of ghrelin for chronic respiratory failure.	Endocrine J•2017 June	Original Article
29	Hironobu Tsubouchi, Hitomi Onomura, Yusuke Saito, et al.	呼吸器内科	Ghrelin does not influence cancer progression in a lung adenocarcinoma cell line	Endocrine J•2017 June	Original Article
30	Shigeki Katoh, Masaki Ikeda, Nobuhiro Matsumoto, et al.	呼吸器内科	Possible Role of IL-25 in Eosinophilic Lung Inflammation in Patients with Chronic Eosinophilic Pneumonia.	Lung•2017 Dec.	Original Article

31	Farhana Naznin, Koji Toshinai, T M Zaved Waise, et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Restoration of metabolic inflammation-related ghrelin resistance by weight loss	J Mol Endocrinol・2018 Feb.	Original Article
32	Weidong Zhang, Hideyuki Sakoda, Ayako Miura, et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Neuromedin U suppresses glucose-stimulated insulin in pancreatic β cells	Biochemical and Biophysical Research Communications・2017 Nov.	Original Article
33	Hiroaki Ueno, Hiroko Nakazato, Emi Ebihara, et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Effects of ipragliflozin on postprandial glucose metabolism and gut peptides in type 2 diabetes: A pilot study	Diabetes Ther・2018 Feb.	Original Article
34	Cherl Namkoong, Koji Toshinai, T M Zaved Waise, et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	NERP-2 regulates gastric acid secretion and gastric emptying via the orexin pathway.	Biochemical and Biophysical Research Communications・2017 Apr.	Original Article
35	Hiroaki Ueno, Tomomi Shiiya, Kazuhiro Nagamine, et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Clinical application of ghrelin for diabetic peripheral neuropathy	Endocrine J・2017 June	Original Article
36	Koichiro Shimizu, Tadato Yonekawa, Morikatsu Yoshida, et al.	内分泌・代謝・糖尿病内科	Conformational change in the ligand-binding pocket via a KISS1R mutation (P147L) leads to isolated gonadotropin-releasing hormone deficiency	J Endocr Soc・2017 Oct.	Original Article

37	Ichiro Takajo, Akiteru Yamada, Kazumi Umeki, et al.	感染制御部	Development of a simple and practical method of discrimination between <i>Vibrio furnissii</i> and <i>V. fluvialis</i> based on single-nucleotide polymorphisms of 16S rRNA genes observed in <i>V. furnissii</i> but not in <i>V. fluvialis</i> .	J Microbiol Methods. • 2018 Jan.	Original Article
38	Yuuki Hashikura, Kazumi Umeki, Kunihiko Umekita, et al.	検査部	Infection of defective human T-lymphotropic virus type 1.	Human cell • 2017 Apr.	Original Article
39	Yayoi Hashiba, Toshihiko Hidaka, Kunihiko Umekita, et al.	膠原病・感染症内科	Remission of chronic type ATL in a patient with rheumatoid arthritis after withdrawing methotrexate and infliximab combination therapy: a case report	Modern Rheumatology Case Reports • 2017 sept.	Case report
40	Tesshin Ban, Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota.	消化器内科	Biliary intervention using SpyGlass cholangioscopy through a cap-attached variable-stiffness colonoscope in a patient following Billroth II gastrectomy.	Arab Journal of Gastroenterology • 2017 Sept.	Case report
41	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, Tesshin Ban.	消化器内科	Rescue antegrade diathermic dilation of hyperplastic tissue at partially covered metallic stent after EUS-guided hepaticogastrostomy.	Endoscopy • 2017 Nov.	Case report

42	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota.	消化器内科	Malignant melanoma metastatic to the gallbladder diagnosed by endoscopic ultrasonography-guided fine-needle aspiration.	Endoscopic Ultrasound • 2017 Dec.	Case report
43	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota, Hiroaki Makiyama, et al.	消化器内科	Uneven double-lumen cannula for rescue guidewire technique in endoscopic ultrasonography-guided hepaticogastrostomy.	Endoscopy • 2017 Oct.	Case report
44	Hiroshi Kawakami, Yoshimasa Kubota.	消化器内科	New rescue technique of endoscopic ultrasonography-guided rendezvous procedure.	Digestive Endoscopy • 2017 July	Case report
45	Ayaka Haruta-Tsukamoto, Hideki Funahashi, Yu Miyahara, et al.	精神科	Alleviation of thalamic pain by cilostazol administration: a case report.	Clinical Case Reports • 2018 Feb.	Case report
46	Hiroshi Moritake, Megumi Obara, Yusuke Saito, et al.	小児科	A mouse model reveals that Mfsd2a is critical for unfolded protein response upon exposure to tunicamycin.	Human cell • 2017 Apr.	Original Article
47	Toshio Ikeda, Akihiko Nakahara, Rie Nagano, et al.	小児科	TBCD may be a causal gene in progressive neurodegenerative encephalopathy with atypical infantile spinal muscular atrophy	J Human Genetics • 2017 Apr.	Original Article

48	Mariko Kinoshita, Ai Yamada, Daisuke Sawa, et al.	小児科	Successful treatment of metastatic alveolar rhabdomyosarcoma with MGMT gene promoter methylation by temozolomide-based combination chemotherapy	Pediatr Blood Cancer • 2018 Jan.	Original Article
49	Kyohei Kondo, Masako Harada, Takao Konomoto, et al.	小児科	Novel PRKAR1A mutation in Carney complex with cardiac myxoma	Pediatr Int • 2017 July	Others
50	Takahiro Nishida, Shinsuke Takeno, Koji Nakashima, et al.	肝胆膵外科	Salvage photodynamic therapy accompanied by extended lymphadenectomy for advanced esophageal carcinoma: A case report	International Journal of Surgery Case Reports • 2017 May (オンライン)	Case report
51	Atsushi Nanashima, Yori-hisa Sumida, Tetsuro Tominaga, et al.	肝胆膵外科	Pancreatic duct-to-mucosa versus invagination or complete external drainage anastomosis in case of small pancreatic duct after pancreaticoduodenectomy: comparative historical review.	Acta medica Nagasakiensia • 2018 Jan.	Original Article
52	Atsushi Nanashima, Goushi Murakami, Katsunori Tagami, et al.	肝胆膵外科	Relationship between serum ghrelin level and physiology in patients who underwent hepatectomy and pancreatectomy.	Acta Medica Nagasakiensia • 2017 Aug.	Original Article
53	Atsushi Nanashima, Tetsuro Tominaga, Takashi Nonaka, et al.	肝胆膵外科	A case of multiple synchronous quadruple cancers of the stomach, sigmoid colon, rectum, and pancreas	International Journal of Surgery Case Reports • 2017 Apr. (オンライン)	Case report

54	Atsushi Nanashima, Shun-ichi Arizumi, Masakazu Yamamoto.	肝胆膵外科	East meets West: East and West pioneers of "anatomical right hepatectomy" - period of dawn to establishment	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences・2018 Mar.	Original Article
55	Atsushi Nanashima, Yori-hisa Sumida, Tetsuro Tominaga, et al.	肝胆膵外科	Significance of liver hanging maneuver for anatomical hepatectomy in patients with a large hepatocellular carcinoma compressing intrahepatic vasculatures	Annals of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery・2017 Nov.	Original Article
56	Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, Naoya Imamura, et al.	肝胆膵外科	Accompanying role of hepato-biliary-pancreas surgeon in urological surgery	International Journal of Surgery Case Reports・2017 Oct. (オンライン)	Case report
57	Masahide Hiyoshi, Atsushi Nanashima, Takashi Wada, et al.	肝胆膵外科	A successful case of locally advanced pancreatic cancer undergoing curative distal pancreatectomy with en bloc celiac axis resection after combination chemotherapy of nab-paclitaxel with gemcitabine	Clinical Journal of Gastroenterology・2017 Dec.	Case report
58	Naoya Imamura, Atsushi Nanashima, Yuki Tsuchimochi, et al.	肝胆膵外科	Intrahepatic portal vein thrombosis due to postoperative biliary obstruction successfully treated by a partial thrombectomy combined with thrombolytic drug therapy.	International Journal of Surgery Case Reports・2017 Nov. (オンライン)	Case report

59	Takeomi Hamada, Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, et al.	肝胆膵外科	Curative distal pancreatectomy in patients with acinar cell carcinoma of pancreas diagnosed by endoscopic aspiration via esophago-jejunoscopy: A successful case report	International Journal of Surgery Case Reports・2018 Jan. (オンライン)	Case report
60	Takeomi Hamada, Atsushi Nanashima, Koichi Yano, et al.	肝胆膵外科	Significance of a soft-coagulation system with monopolar electrode for hepatectomy: A retrospective two-institution study by propensity analysis	International Journal of Surgery・2017 sept.	Case report
61	Yoshiro Fujii, Atsushi Nanashima, Masahide Hiyoshi, et al.	肝胆膵外科	Risk factors for development of nonalcoholic fatty liver disease after pancreatoduodenectomy.	Annals of Gastroenterological Surgery・2017 Sept.	Original Article
62	Yukinori Tanoue, Shinsuke Takeno, Fumiaki Kawano, et al.	肝胆膵外科	A case of separation surgery with drainage tube-less (DRESS) esophagostomy for advanced cancer with a respiratory fistula.	International Journal of Surgery Case Reports・2018 Feb. (オンライン)	Case report
63	Fumiaki Kawano, Kousei Tashiro, Hironobu Nakao, et al.	消化管・内分泌・小児外科	Jejunogastric intussusception after distal gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction. : A case report	International Journal of Surgery Case Reports・2018 Jan. (オンライン)	Case report
64	Masaya Suzuhigashi, Tatsuro Kaji, Hiroyuki Noguchi, et al.	消化管・内分泌・小児外科	Current characteristics and management of congenital esophageal stenosis: 40 consecutive cases from a multicenter study in the Kyushu area of Japan.	Pediatric Surgery International・2017 Oct.	Original Article

65	Koichi Yano, Atsushi Nanashima, Yoshiro Fujii, et al.	消化管・内分泌・小児外科	Preoperative regional maximal removal rate of technetium-99m-galactosyl human serum albumin is correlated with liver functional parameters, but did not predict postoperative morbidity	Nuclear Medicine Communications・2017 Aug.	Review
66	Koichi Yano, Kazuhiro Kondo, Atsushi Nanashima, et al.	消化管・内分泌・小児外科	Preoperative maximal removal rate of technetium-99m-galactosyl-human serum albumin of the remnant liver is associated with postoperative tumor relapse in hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	Nuclear Medicine Communications・2018 Jan.	Review
67	Koji Furukawa, Mitsuhiro Yano, Eisaku Nakamura, et al.	心臓血管外科	Effect of preoperative left ventricular diastolic dysfunction on mid-term outcomes after surgical ventricular restoration for ischemic cardiomyopathy.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery・2017 July	Original Article
68	Koji Furukawa, Mitsuhiro Yano, Eisaku Nakamura, et al.	心臓血管外科	Comparison of mitral competence after mitral repair with papillary muscle approximation versus papillary muscle relocation for functional mitral regurgitation.	Heart and Vessels・2018 Jan.	Original Article
69	Koji Furukawa, Mitsuhiro Yano, Eisaku Nakamura, et al.	心臓血管外科	Left Ventricular Reconstruction and Mitral Valve Annuloplasty Combined with Papillary Muscle Relocation for Severe Ischemic Mitral Regurgitation.	World Journal of Cardiovascular Surgery・2017 Dec.	Case report

70	Hirohito ishii, Kunihide Nakamura, Eisaku Nakamura, et al.	心臓血管外科	Successful Embolization Therapy through Reentry Tear in the Right Subclavian Artery for Treating Patent False Lumen in the Aortic Arch Formed after Type A Dissection Repair.	Anal of vascular diseases•2017 sept.	Case report
71	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Kazuyo Tsuchiya, et al.	呼吸器・乳腺外科	Influence of smoking status and mass body index on serum carcinoembryonic antigen concentration in patients with thoracic diseases.	Surgical Science•2017 July	Original Article
72	Masaki Tomita, Takanori Ayambe, Kunihide Nakamura.	呼吸器・乳腺外科	Does Obesity-related Hemodilution of Carcinoembryonic Antigen Exist in Non-small Cell Lung Cancer Patients?	World Journal of Oncology•2017 Apr.	Original Article
73	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Kunihide Nakamura.	呼吸器・乳腺外科	Low body mass index is an independent predictive factor after surgical resection in patients with non- small cell lung cancer.	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention•2017 Dec.	Original Article
74	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Ryo Maeda, et al.	呼吸器・乳腺外科	Combination of advanced lung cancer inflammation index and C-reactive protein is a prognostic factor in patients with non- small cell lung cancer.	World Journal of Oncology•2017 Dec.	Original Article
75	Masaki Tomita, Nobuhiko Ichiki, Takanori Ayabe, et al.	呼吸器・乳腺外科	Thymoma (World Health Organization type B3) with neuroendocrine differentiation in multiple endocrine neoplasia type 1.	Journal of Surgical Case Reports•2017 Apr.	Case report

76	Takanori Ayabe, Masaki Tomita, Takashi Asada, et al.	呼吸器・乳腺外科	Patient-Reported Outcomes of Chemotherapy Involving Non-Small Cell Lung Cancer: Evaluation by Questionnaires of Quality of Life Regarding Anti-Aging and Anti-Cancer Drugs	Advances in Lung Cancer・2017 June	Original Article
77	Takanori Ayabe, Masaki Tomita, Shigeki Shimizu, et al.	呼吸器・乳腺外科	Unexpected Postoperative Paraplegia after Thoracotomy in Lung Cancer: Incidental Migration of Oxidized Regenerated Cellulose Used for Hemostasis of Intercostal Space Bleeding.	Surgical Science・2017 Aug.	Case report
78	Takanori Ayabe, Masaki Tomita, Naohiro Nose, et al.	呼吸器・乳腺外科	Patient-Reported Outcomes of Surgery of Non-Small Cell Lung Cancer: Evaluation Based on the Questionnaires of Anti-Aging Quality of Life and the European Organization for the Research and Treatment of Cancer Quality of Life Questionnaire.	Surgical Science・2017 May	Original Article
79	Kazuyo Tsuchiya, Atsushi Nanashima, Takuto Ikeda, et al.	呼吸器・乳腺外科	A case of concomitant colitic cancer and intrahepatic cholangiocarcinoma during follow-up for ulcerative colitis.	Clinical Journal of Gastroenterology・2017 Apr.	Case report
80	Masaki Tomita, Takanori Ayabe, Kunihide Nakamura.	呼吸器・乳腺外科	The advanced lung cancer inflammation index is an independent prognostic factor after surgical resection in patients with non-small-cell lung cancer.	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery・2018 Feb.	Review

81	Hiroshi Ito, Yosuke Niimi, Karin Ikeda, et al.	形成外科	Digital Artery Massage for Improving Ischemia after Distal Digital Replantation Surgery	Journal of Reconstructive Microsurgery Open•2018 Jan.	Case report
82	Jun Nakatake, Koji Totoribe, Etsuo Chosa, et al.	リハビリテーション部	Influence of Gender Differences on Range of Motion and Joint Angles During Eating in Young, Healthy Japanese Adults	Progress in Rehabilitation Medicine•2017 Aug. (オン ライン)	Original Article
83	Noboru Taniguchi, Darryl D. D'Lima, Naoki Suenaga, et al.	整形外科	Translation of the humeral head scale is associated with success of rotator cuff repair for large- massive tears.	BMC Musculoskeletal Disorders•2017 Dec.	Original Article
84	Takuya Tajima, Tomohisa Sekimoto, Nami Yamaguchi, et al.	整形外科	Hemoglobin stimulates the expression of ADAMTS-5 and ADAMTS-9 by synovial cells: a possible cause of articular cartilage damage after intra- articular hemorrhage.	BMC Musculoskeletal Disorders•2017 Nov.	Original Article
85	Noboru Taniguchi, Darryl D. D'Lima, Naoki Suenaga, et al.	整形外科	A new scale measuring translation of the humeral head as a prognostic factor for the treatment of large and massive rotator cuff tears.	Journal of Shoulder and Elbow Surgery•2018 Feb.	Original Article
86	Tomohisa Sekimoto, Miho Ishii, Mitsuru Emi, et al.	整形外科	Copy number loss in the region of the ASPN gene in patients with acetabular dysplasia: ASPN CNV in acetabular dysplasia.	Bone & Joint Research• 2017 July	Original Article

87	Toshio Kamimura, Kazutaka Kida, Masashi Takeda, et al.	泌尿器科	Surgical intervention for renal cell carcinoma with inferior vena cava extension combined with laparoscopic procedure.	Research and Reports in Urology • 2017 June	Case report
88	Takako Hidaka, Hideki Chuman, Nobuhisa Nao-i.	眼科	Evaluation of optic nerve head blood flow in normal rats and a rodent model of non-arteritic ischemic optic neuropathy using laser speckle flowgraphy.	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology • 2017 Oct.	Original Article
89	Hideki Chuman, Takako Sugimoto, Nobuhisa Nao-i.	眼科	Pediatric Cavernous Sinus Syndrome as the Initial Presentation of Intracranial Germinoma: A Case Report.	JOJ Ophthalmology • 2017 Aug.	Case report
90	Hideki Chuman, Nobuhisa Nao-i, Koichiro Tamura.	眼科	Horner's Syndrome Caused by Internal Carotid Artery Collapse after Clipping of an Internal Carotid-Posterior Cerebral Artery Aneurysm.	Ophthalmology Case Reports • 2017 Sept.	Case report
91	Takako Sugimoto, Hideki Chuman, Nobuhisa Nao-i.	眼科	Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma with Extraocular Muscle Infiltration a Case Report.	JOJ Ophthalmology • 2017 Sept.	Case report
92	Hideki Chuman, Takako Hidaka, Nobuhisa Nao-i.	眼科	Evaluation of optic disc blood flow of intraconal orbital tumors using laser speckle flowgraphy.	Ophthalmology Case Reports • 2017 Oct.	Case report

93	Hideki Chuman, Takako Sugimoto, Nobuhisa Nao-i.	眼科	Vasodilatory effect of L-arginine on isolated rabbit and human posterior ciliary arteries in vitro and increased optic disc blood flow in vivo.	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology • 2017 Dec.	Original Article
94	Hideki Chuman, Yuki Inoue, Nobuhisa Nao-i.	眼科	Could Congenital Ocular Motor Apraxia be Caused by a Celebeller Vermis Dysfunction?	JOJ Ophthalmology • 2017 Dec.	Case report
95	Keiji Matsuda, Tetsuya Tono, Hiromi Kojima, et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Practicality analysis of the staging system proposed by the Japan Otological Society for acquired middle ear cholesteatoma: A multicenter study of 446 surgical cases in Japan.	Auris Nasus Larynx • 2018 Feb.	Original Article
96	Tetsuya Tono, Masafumi Sakagami, Hiromi Kojima, et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Staging and Classification Criteria for Middle Ear Cholesteatoma Proposed by the Japan Otological Society.	Auris Nasus Larynx • 2017 Apr.	Original Article
97	Takahiro Nakashima, Keiji Matsuda, Shin-ya Hirahara, et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Use of the Bonebridge™ for the Percutaneous BAHAs user with Skin Complications: A Case Report.	Clinics of Otorhinolaryngology • 2017 Dec.	Case report
98	Tetsuya Tono, Masagumi Sakagami, Hiromi Kojima, et al.	耳鼻いんこう・頭頸部外科	Introduction of the Japan Otological society work on classification and staging of cholesteatoma: the nationwide survey of cholesteatoma surgical cases in Japan.	Cholesteatoma and Ear Surgery—An Update 2017. • 2017 Aug.	Case report

99	Midori Fujisaki, Ken Furuta, Masanao Ohhayashi, et al.	総合周産期母子医療センター	Antithrombin improves the maternal and neonatal outcomes but not the angiogenic factors in extremely growth-restricted fetuses at <28 weeks of gestation.	Journal of Perinatal Medicine • 2017 Oct.	Original Article
100	Youhei Maki, Midori Fujisaki, Yuichiro Sato, et al.	産科・婦人科	Candida chorioamnionitis leads to preterm birth and adverse fetal-neonatal outcome.	Infectious Diseases in Obstetrics and Gynecology • 2017 Oct.	Original Article
101	Yasuyuki Kawagoe, Hiroshi Sameshima.	産科・婦人科	Hypoxia: Animal experiments and clinical implications.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research • 2017 sept.	Original Article
102	Junsuke Muraoka, Yuki Kodama, Hiroshi Sameshima, et al.	産科・婦人科	Fetal left ventricular non-compaction cardiomyopathy with ascites: A case report.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research • 2017 sept.	Case report
103	Hiroshi Sameshima, Shigeru Saito, Yoshio Matsuda, et al.	産科・婦人科	Annual Report of the perinatology committee, Japan society of obstetrics and gynecology, 2016: Overall report on a comprehensive retrospective study of obstetric management of preterm labor and preterm premature rupture of the membranes.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research • 2018 Jan.	Others

104	Midori Fujisaki, Seishi Furukawa, Yohei Maki, et al.	産科・婦人科	Maternal Morbidity in Women with Placenta Previa Managed with Prediction of Morbidly Adherent Placenta by Ultrasonography	Journal of Pregnancy・2017 Apr.	Original Article
105	Yoichi Mizutani, Toshinori Hirai, Shigeki Nagamachi, et al.	放射線科	Prediction of Posthepatectomy Liver Failure Proposed by the International Study Group of Liver Surgery: Residual Liver Function Estimation With ^{99m} Tc-Galactosyl Human Serum Albumin Scintigraphy.	Clinical Nuclear Medicine・2018 Feb.	Original Article
106	Zaw Aung Khant, Toshinori Hirai, Osamu Ikeda, et al.	放射線科	Successful transarterial embolization with cellulose porous beads for occipital haemangioma in an infant with Kasabach-Merritt syndrome.	British Journal of Radiology Case Reports・2017 May (オンライン)	Case report
107	Norihiro Shinkawa, Toshinori Hirai, Ryuichi Nishii, et al.	放射線科	Usefulness of 2D fusion of postmortem CT and antemortem chest radiography studies for human identification.	Japanese Journal of Radiology・2017 June	Original Article
108	Yoshihito Kadota, Toshinori Hirai, Hideo Nakamura, et al.	放射線科	Benefit of 3T Diffusion-weighted Imaging in Comparison to Contrast-enhanced MR Imaging for the Evaluation of Disseminated Lesions in Primary Malignant Brain Tumors.	Magnetic Resonance in Medical Sciences・2017 July	Original Article
109	Ryuichi Nishii, Shigeki Nagamachi, Youichi Mizutani, et al.	放射線科	Do TSH, FT3, and FT4 Impact BAT Visualization of Clinical FDG-PET/CT Images?	Contrast Media Mol Imaging・2018 Feb.	Original Article

110	Takeshi Yano, Hiroyuki Fukumoto, Masahiko Taniguchi, et al.	麻醉科	Analysis of the Alarms From a Blood Purification Machine During Continuous Haemodiafiltration	Turk J Anaesthesiol Reanim • 2017 Aug.	Letter
111	Takeshi Yano, Masahiko Taniguchi, Isao Tsuneyoshi.	麻醉科	Food Choking in a Patient with Congenital Temporomandibular Joint Ankylosis.	Turk J Anaesthesiol Reanim • 2017 Dec.	Letter
112	Kiyotaka Saito, Kouji Yamasaki, Kiyotaka Yokogami, et al.	脳神経外科	Eosinophilic meningitis triggered by implanted Gliadel wafers: case report.	Journal of Neurosurgery • 2017 June	Case report
113	Kiyotaka Saito, Toshinori Hirai, Hideo Takeshima, et al.	脳神経外科	Genetic Factors Affecting Intraoperative 5-aminolevulinic Acid-induced Fluorescence of Diffuse Gliomas.	Radiology and Oncology • 2017 Apr.	Case report
114	Kaori Igawa, Hideki Funahashi, Yu Miyahara, et al.	歯科口腔外科	Distribution of hemokinin-1 in the rat trigeminal ganglion and trigeminal sensory nuclear complex.	Archives of Oral Biology • 2017 July	Original Article
115	Tomohiro Tamura, Tomonaga Ichikawa, Shingo Nakahata, et al.	歯科口腔外科	Loss of NDRG2 expression confers oral squamous cell carcinoma with enhanced metastatic potential.	Cancer Research • 2017 May	Original Article

116	Keiichi Arimura, Hideaki Takagi, Tomofumi Uto, et al.	歯科口腔外科	Crucial role of plasmacytoid dendritic cells in the development of acute colitis through the regulation of intestinal inflammation.	Mucosal Immunology • 2017 July	Original Article
117	Yuudai Kondo, Aya Izumi, Koji Yamamoto, et al.	歯科口腔外科	A case report of free forearm dermal flap reconstruction in a patient with tongue cancer and psoriasis vulgaris	Oral Science International • 2018 Jan.	Case report
118	Yuudai Kondo, Keiichi Arimura, Yuri Tagawa, et al.	歯科口腔外科	The effect of perioperative oral function management of patients undergoing chemotherapy, based on blood culture tests	Journal of Dental and Oral health • 2017 May	Original Article
119	Koji Yamamoto, Makiko Kawaguchi, Takeshi Shimomura, et al.	歯科口腔外科	Hepatocyte growth factor activator inhibitor type-2 (HAI-2)/SPINT2 contributes to invasive growth of oral squamous cell carcinoma cells	Oncotarget • 2018 Feb.	Original Article
120	Eriko Nakamura, Yuichiro Sato, Takashi Iwakiri, et al.	病理診断科	Asymptomatic plaques of lower peripheral arteries and their association with cardiovascular disease: An autopsy study.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis • 2017 Sept.	Original Article
121	Toshihiro Gi, Yuichiro Sato, Takako Tokumitsu, et al.	病理診断科	Microvascular proliferation of brain metastases mimics glioblastomas in squash cytology.	Cytopathology • 2017 June	Original Article

122	Takako Tokumitsu, Yuichiro Sato, Atsushi Yamashita, et al.	病理診断科	Immunocytochemistry for Claudin-18 and Maspin in biliary brushing cytology increases the accuracy of diagnosing pancreatobiliary malignancies	Cytopathology • 2017 Apr.	Original Article
123	Takako Tokumitsu, Yuichiro Sato, Tsuyoshi Fukushima, et al.	病理診断科	Squash cytology findings of subependymomas: A report of three cases and differential diagnosis.	Diagnostic Cytopathology • 2018 Mar.	Case report
124	Shiori Nishikawa, Hiroshi Noguchi, Takako Tokumitsu, et al.	病理診断科	Diagnosis of pediatric neuroblastoma by urine cytology: A case report.	Diagnostic Cytopathology • 2018 Mar.	Case report
125	Atsushi Yamashita, Yujiro Asada.	病理診断科	Pathology of coronary atherosclerotic plaques and mechanisms of plaque disruption.	Annals of Nuclear Cardiology • 2017 Oct.	Review
126	Hiroaki Kataoka, Makiko Kawaguchi, Tsuyoshi Fukushima, et al.	病理診断科	Hepatocyte growth factor activator inhibitors (HAI-1 and HAI-2): Emerging key players in epithelial integrity and cancer.	Pathology International • 2018 Mar.	Review
127	Hiroaki Kataoka, Tsuyoshi Fukushima.	病理診断科	Pericellular Activation of Peptide Growth Factors by Serine Proteases.	Regulation of Signal Transduction in Human Cell Research • 2018 Jan.	Review

128	Yasuyoshi Kuroiwa, Hiroshi Tai, Atsushi Yamashita.	病理診断科	High Signal Intensity in Arterial Walls on Diffusion-Weighted Magnetic Resonance Imaging in the Active Phase of Takayasu Arteritis.	Circulation Journal・2017 Nov.	Case report
129	Koichi Imai, Hidenobu Ochiai, Keisuke Murakami.	救急科	Verification of the airway securing capacity of a life jacket in a flood disaster.	American Journal of Disaster Medicine・2017 June	Original Article
130	Tomohiro Abe, Takehiko Nagano, Hidenobu Ochiai.	救命救急センター	Potential benefit of physician-staffed helicopter emergency medical service for regional trauma care system activation: An observational study in rural Japan.	Journal of Rural Medicine・2017 May	Original Article
131	Hiroki Furuhata, Kenji Araki, Taisuke Ogawa, et al.	医療情報部	Effect on Completion of Clinical Pathway for Improving Clinical Indicator: Cases of Hospital Stay, Mortality Rate, and Comprehensive-Volume Ratio.	Journal of Medical Systems・2017 Dec.	Original Article

計131件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article

2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 申請の方法、審査の方法、重篤な有害事象の報告、実施状況の報告等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象及び基準、臨床研究等実施者の責務、委員会の設置等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 8 回
・ 研修の主な内容 臨床研究に関する基礎知識、研究計画書の書き方等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科における入院・外来患者についての検討や術前・術後の検討を定期的に行っている。また、各診療科の専門分野における教育的な症例や稀な症例について検討する場としての研修を開催している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	177人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
北村 和雄	第一内科	教授	37年	
下田 和哉	第二内科	教授	30年	
中里 雅光	第三内科	教授	37年	
岡山 昭彦	膠原病感染症内 科	教授	37年	
石田 康	精神科	教授	32年	
盛武 浩	小児科	教授	24年	
七島 篤志	肝胆臓外科	教授	29年	
池田 拓人	消化管・内分泌・ 小児外科	講師	25年	
中村 都英	心臓血管外科	教授	36年	
富田 雅樹	呼吸器・乳腺外 科	准教授	29年	
守永 圭吾	形成外科	講師	18年	
帖佐 悦男	整形外科	教授	33年	
天野 正宏	皮膚科	教授	31年	
賀本 敏行	泌尿器科	教授	30年	
直井 信久	眼科	教授	38年	
東野 哲也	耳鼻いんこう・ 頭頸部外科	教授	36年	
川越 靖之	産科・婦人科	准教授	25年	
平井 俊範	放射線科	教授	28年	
恒吉 勇男	麻酔科	教授	27年	
竹島 秀雄	脳神経外科	教授	34年	
山下 善弘	歯科口腔外科・ 矯正歯科	教授	24年	
片岡 寛章	病理診断科	教授	35年	
落合 秀信	救急科	教授	29年	
帖佐 悦男	リハビリテーシ ョン科	教授	33年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容：①ハイリスク薬に関する病棟毎勉強会、②診療放射線技師業務研修 ③災害看護、④認知症ケアの実際-今日から活かせるケアメソッド-、⑤PNS研修、⑥STAS-Jから始める緩和ケア、⑦時間外・緊急検査業務研修会⑧マネジメントレビューアウトプット・検査部抄読会、⑨宮崎県画像医学研究会、⑩NST院内勉強会、⑪リハビリテーション合同カンファレンス

・研修の期間・実施回数：①1回、②2回、③1回、④1回、⑤2回、⑥2回、⑦1回、⑧12回（月1回開催）、⑨2回、⑩3回、⑪12回

・研修の参加人数：①122名、②10名、③95名、④113名、⑤200名、⑥120名、⑦29名、⑧287名、⑨40名、⑩153名、⑪35名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容：①医療安全管理・感染対策講演会、②医療安全管理に関する追加職員研修、③「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」改正に伴う対応の説明、④臨床研究に関する講習会、⑤BLS定期講習会、⑥大規模災害訓練、⑦院内ロジスティックス研修会

・研修の期間・実施回数：①6回、②1回、③2回、④15回、⑤10回、⑥1回、⑦1回

・研修の参加人数：①2,915名、②1,309名、③526名、④477名、⑤102名、⑥200名、⑦50名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

①第9回宮崎リハビリテーション講習会、②第40回宮崎リハビリテーション研究会、③NST講演会、④第2回体腔液・脳脊髄液の細胞診ワークショップ、⑤第4回細胞検査士養成研修会、⑥第8回宮崎病理診断フォーラム、⑦第5回宮崎県臨床細胞学会ワークショップ、⑧平成29年度宮崎県緩和ケア研修会、⑨宮崎大学公開講座宮崎大学医学部附属病院がん診療部 E L N E C - J 研修

、⑩ 宮崎放射線技術研究会、⑪宮崎県病院薬剤師会研修会、⑫精神科領域専門薬剤師養成講習会、⑬病院薬学認定研修会、⑭臨床検査セミナー

・研修の期間・実施回数：①1回、②1回、③3回、④1回、⑤1回、⑥1回、⑦1回、⑧2回、⑨3回、⑩2回、⑪4回、⑫6回、⑬2回、⑭2回

・研修の参加人数：①93名、②64名、③153名、④50名、⑤20名、⑥60名、⑦50名、⑧68名、⑨18名、⑩146名、⑪436名、⑫195名、⑬166名、⑭69名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 鮫島 浩
管理担当者氏名	総務課長 龍元 裕貴

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	電子媒体（電子カルテ）及び各診療科	<ul style="list-style-type: none"> 原則電子カルテ、ただし紙カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類。 エックス線写真は電子媒体に保存
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
		病院の管理及び運営に関する諸記録		
高度の医療の提供の実績	医事課			
高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課			
高度の医療の研修の実績	総務課			
閲覧実績	なし			
紹介患者に対する医療提供の実績	医事課			
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部			
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部		

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	鮫島 浩	
閲覧担当者氏名	龍元 裕貴	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 3階 ミーティングルーム	
閲覧の手続の概要		
<ul style="list-style-type: none">・ 内部者については権限を付与し、閲覧を制限している。・ 外部者については、特に定めていない。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に係る安全管理の基本的考え方 2. 医療に係る安全管理体制 3. 職員研修・教育 4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策 5. 医療事故等発生時の対応 6. 患者等との情報の共有 7. 患者からの相談の対応 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故防止のための具体的措置に関する事。 2. 医療安全管理マニュアルに関する事。 3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関する事。 4. 医療事故発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関する事。 5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関する事。 6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関する事。 7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関する事。 8. 入院患者の全死亡例の報告及び検証に関する事。 9. 医療安全管理部の業務に関する事。 10. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関する事。 11. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関する事。 12. その他医療事故等及び医療訴訟に関する事。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 16 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に関する講演会（4回） <ul style="list-style-type: none"> 第1回 群馬大学病院医療事故調査で“私”が学んだこと -大学病院に期待すること- 第2回 生体情報モニタとチャンネル管理について 第3回 患者の権利と臨床倫理を考える -特にDNARをめぐる誤解と混乱を中心に- 第4回 ポリファーマシーを考える -問題とその対策- 2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（2回） 3. 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回） 4. 新規採用者研修（9回） 5. 特定機能病院承認要件に伴う追加の職員研修e-ラーニング（1回） 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. リスクマネージャー会議での事例報告及び周知 2. 作業標準の作成 3. 医療安全管理マニュアルの作成・見直し 4. 院内ラウンド 5. 部署毎の医療安全管理に関する改善計画と改善結果の報告 6. 事例検証会、医療安全管理委員会での対策の検討、事例報告等 7. 院内全死亡例についての検証 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に対する基本的な考え方 2. 委員会等の組織に関する基本的事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針報告 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の予防に関すること。 2. 感染の情報の収集に関すること。 3. 感染源の追及等のための検査の実施に関すること。 4. 防疫対策の確立に関すること。 5. その他感染対策についての重要事項に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年18回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理に関する講演会（4回） <ul style="list-style-type: none"> 第1回 感染対策マニュアルの変更点 — CDトキシン検査の流れと隔離判断について — 第2回 グローバル時代の感染症とその対策 ～いま、そこにある危機とアカデミアの役割～ 第3回 抗菌薬適正使用に関する最近の話題 第4回 当院の感染対策ブラッシュアップ 2. 講演会（第1回、第2回）のDVD上映（2回） 3. 講演会e-ラーニング（第1回～第4回）（1回） 4. 各部署との勉強会（2回） <ul style="list-style-type: none"> ・ NICU 栄養物品の管理について ・ がん診療部 <ol style="list-style-type: none"> ① トリアージ：患者からの事前の自己申告、入室後の検温 ② 感染性胃腸炎：感染経路別予防策、嘔吐物の処理方法、就業制限について ③ インフルエンザ：感染経路別予防策、インフルエンザ患者発生時の対応、就業制限について 5. 新規採用者研修（9回） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有） 	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 院内感染症事例や法令に定められた感染症の届出および院内での耐性菌動向サーベイランスを行い、必要に応じて病院長への報告、感染制御部、インфекションコントロールチームでの検討、現場へのフィードバックを行う。
2. 集団院内感染（アウトブレイク）が発生した場合、報告を受けたリンクドクター・リンクナース、感染担当者など当該科の責任者が医事課・感染制御部へ報告する。CIC は当該科・部門と協力して初期対応、感染拡大抑制に努める。緊急を要する感染症で深刻なものである場合は、医療安全管理部と連携し病院長を本部長とする対策本部を設置し、緊急対策を講ずるとともに再発防止および対応方針を検討する。
3. 感染制御部による定期的な院内ラウンドの実施、「院内感染対策のための指針」に則した感染対策マニュアルを整備および定期的な見直しを行い院内感染対策の推進を図る。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年21回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 第3回医療安全管理・感染対策講演会 抗菌薬適正使用に関する最近の話題 2. リスクマネージャー会議（第4回）アドバンスドセミナー 転倒・転落、その誘発要因としての催眠・鎮静薬 3. 各病棟との勉強会 ハイリスク薬に関して 4. 新規採用者研修 静脈注射に用いられる薬剤の基礎知識 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用 2. 医薬品の購入 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4. 部署における麻薬の運用 5. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 6. 病棟における医薬品の管理 7. 外来における医薬品の管理 8. 手術部の医薬品管理 9. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い（収集、提供等）に関する事項 10. 救急部門・集中治療室 11. 輸血・血液管理部門 12. 生命維持管理装置領域 13. 臨床検査部門 14. 画像診断部門 15. 他施設との連携 16. 事故発生時の対応 17. 教育・研修に関する事項 <p>上記項目に関し、手順書改定時にチェック表を用いて全項目、各担当者が業務手順書を確認している。</p> 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	適宜
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： (1) 人工心肺装置及び補助循環装置 機器の取扱説明、心筋保護法説明、システムに関する説明 (2) 人工呼吸器 機器の取扱説明、各種アラームと対処 (3) 血液浄化装置 機器の取扱説明、トラブルについて (4) 除細動器 機器の取扱説明、機器点検に関して (5) 閉鎖式保育器 機器の取扱説明、機器点検に関して (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応 (7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） 機器に関する品質管理・精度管理、診療報酬改定等に関する機器管理対応 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （有） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： (1) 人工心肺装置及び補助循環装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (2) 人工呼吸器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (3) 血液浄化装置 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (4) 除細動器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (5) 閉鎖式保育器 メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置（直線加速器等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 (7) 診療用放射線照射装置（ガンマナイフ等） メーカーによる定期点検並びに職員による日常点検 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医療機器の不具合や健康被害等に関する院内外の情報について、医療機器安全管理責任者から必要に応じて病院長並びに医療安全管理委員会へ報告するとともに、院内への周知や対応を行う。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有								
<p>・ 責任者の資格（医師）</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者の配置を、「医療に係る安全管理のための指針」及び「医療安全管理体制」に明記している。併せて、医療安全管理責任者は、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する文言を追記している。</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室の担当者に PMDA、論文情報、製薬企業等から得られる情報を収集・整理させ、重要度、緊急性に応じ通知文書、院内ネットワーク、病棟薬剤師および会議等により情報の周知を図っている。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>調剤時や病棟業務において未承認を含む使用に疑義のある医薬品に関しては、必ず処方医に疑義照会し、必要に応じて処方変更の提案を行い、その結果および警鐘事例を医薬品専門部会、医療安全管理委員会およびリスクマネージャー会議に報告することにより全病院に周知を図っている。</p> <p>・ 担当者の指名の有無（ 有 ）</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <table border="0" data-bbox="175 1339 1284 1496"><tr><td>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr></table>		（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）
（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有								
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ 有 ）</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p>									

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録等の記載内容の確認については、毎月1回開催される医療情報監査専門部会にて、一次監査（量的監査 [入院診療計画書・経過記録・手術記録・インフォームドコンセント・死亡診断書]）、二次監査（診療録チェックシートによる医師のピアレビュー）の結果および改善策を審議し医療情報委員会へ報告する。3ヵ月毎に開催される医療情報委員会にて診療録改善計画について審議し指導をおこなう。</p> <p>指導の主な内容は下記について病院連絡会議にて報告、指導を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入院診療計画書、退院時サマリ 100%作成維持 2. インフォームドコンセント、説明書・同意書、説明記録の共通様式での記載 3. 経過記録、手術記録の記載率の向上 4. 研修医指導医の承認 100% 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（0）名、兼任（5）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（5）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（0）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）の運営に関する事。 2. インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関する事。 3. インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に関する事。 4. インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関する事。 5. 患者からの医療に係る相談に関する事。 6. インシデント及び医療事故の調査及び分析に関する事。 （入院患者の全死亡例報告の検証を含む） 7. 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関する事。 8. 医療安全のための教育・研修に関する事。 9. 医療安全管理マニュアルに関する事。 10. 医療安全の確保の資する診療内容のモニタリングに関する事。（深部静脈血栓症について） 11. 委員会での決定事項の実施状況調査及び見直しに関する事。 12. 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関する事。 13. その他医療事故防止及び医療の安全管理に関する事。 <p>上記、委員会においての決定事項等をリスクマネージャー会議で伝達し職員に周知している。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
診療科から2件の申請を受け、高難度新規医療技術評価委員会を開催した。委員会の意見を踏まえ、提供の適否を決定し、申請を行った診療科長に対し結果を通知した。また当該技術が適正な手順に基づいて提供されたかについては、報告書の提出を受け、実施状況を確認し病院長へ報告を行った。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（9件）、及び許可件数（9件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
診療科から9件の申請を受け、未承認新規医薬品等評価委員会を開催した。委員会の意見を踏まえ提供の適否を決定し、申請を行った診療科長に対し結果を通知した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 215 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 81 件（3b 以上）
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
入院患者の院内死亡事例については、毎週1回開催される医療安全管理部会議にて、死亡に至った経緯及び死因を検討し、医療事故調査制度における『予期せぬ死亡』に該当するか否かを判定したものを毎月開催される委員会で審議している。
特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象（3b 以上）についても同様に、毎週1回開催される医療安全管理部会議にて、経緯及び原因究明等の調査結果を検討し、毎月開催される委員会にて再発防止策を含め審議している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：秋田大学医学部附属病院）11月8日）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：浜松医科大学医学部附属病院）11月27日）
- ・技術的助言の実施状況
画像診断レポート等の確認に関する安全対策については、次年度の電子カルテ入替に伴う管理システムが導入の際、量的監査以外にも質的監査も十分行えるよう期待したい（浜松医科大学）

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 宮崎大学医学部附属病院医療安全相談窓口運営要項により、患者からの苦情・相談について適切に対応し医療安全管理部及び病院長に報告をしている。

⑫ 職員研修の実施状況
・研修の実施状況 1. 医療安全管理に関する講演会（4回） 第1回 群馬大学病院医療事故調査で“私”が学んだこと -大学病院に期待すること- 第2回 生体情報モニタとチャンネル管理について 第3回 患者の権利と臨床倫理を考える -特にDNARをめぐる誤解と混乱を中心に- 第4回 ポリファーマシーを考える -問題とその対策- 2. 講演会DVD上映（2回） 3. 講演会e-ラーニング（1回） 4. 新規採用者研修（9回） 5. 特定機能病院承認要件の伴う職員研修e-ラーニング（1回）

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 管理者： 平成 29 年度特定機能病院管理者研修（平成 30 年 1 月 9 日、10 日、京都） 医療安全管理責任者（兼：医療機器安全管理責任者）： 第 29 回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会（平成 29 年 5 月 30 日、大阪） 第 30 回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会（平成 29 年 10 月 26、27 日、秋田） 平成 29 年度医療安全に関するワークショップ（平成 29 年 11 月 21 日、福岡） 平成 29 年度特定機能病院管理者研修（平成 30 年 1 月 9 日、10 日、京都） 医薬品安全管理責任者： 平成 29 年度特定機能病院管理者研修（平成 30 年 1 月 9 日、10 日、京都）

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none">・ 基準の主な内容<ol style="list-style-type: none">1. 医師免許を有している者2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、必要な医療安全管理業務の経験及び医療安全管理について十分な知見を有すること。3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 当院又は当院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理者として必要な資質・能力を有し、病院構成員の意見反映に留意しつつ、医療を取り巻く様々な変化に適切に対応し、強いリーダーシップを持って病院経営にあたり、適正な管理運営ができること。4. 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有する者 医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ）・ 公表の方法 大学ホームページに公開している。

規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	無			
<ul style="list-style-type: none">・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ）・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ）・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ）・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の2 3 第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 附属病院の管理運営に関する事項を審議 ・審議の概要の従業者への周知状況 病院連絡会議等で周知している ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・公表の方法 大学ホームページに掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ 無 ） 			
合議体の委員名簿（別添）			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
鮫島 浩	○	医師	病院長
北村 和雄		医師	循環器内科科長
藤元 昭一		医師	腎臓内科科長
永田 賢治		医師	肝臓内科科長
下田 和哉		医師	血液内科科長
塩見 一剛		医師	神経内科科長
松元 信弘		医師	呼吸器内科科長
中里 雅光		医師	内分泌・代謝・糖尿病 内科科長
岡山 昭彦		医師	膠原病・感染症内科科 長
河上 洋		医師	消化器内科科長
石田 康		医師	精神科科長
盛武 浩		医師	小児科科長
七島 篤志		医師	肝胆膵外科科長
池田 拓人		医師	消化管・内分泌・小児 外科科長
中村 都英		医師	心臓血管外科科長
富田 雅樹		医師	呼吸器・乳腺外科科長
伊東 大		医師	形成外科科長
帖佐 悦男		医師	整形外科科長

(様式 6-3)

天野 正宏		医師	皮膚科科長
賀本 敏行		医師	泌尿器科科長
直井 信久		医師	眼科科長
東野 哲也		医師	耳鼻咽喉科科長
川越 靖之		医師	産科婦人科科長
平井 俊範		医師	放射線科科長
恒吉 勇男		医師	麻酔科科長
竹島 秀雄		医師	脳神経外科科長
山下 善弘		歯科医師	歯科口腔外科・矯正歯 科科長
片岡 寛章		医師	病理診断科科長
久富木 庸子		医師	輸血・細胞治療部
落合 秀信		医師	救命救急センター長
山口 昌俊		医師	遺伝カウンセリング 部長
細川 歩		医師	がんセンター長
荒木 賢二		医師	医療情報部長
佐藤 勇一郎		医師	病理部長
白阪 哲朗		医師	ME機器センター長
我那覇 章		医師	難聴支援センター長
吉村 学		医師	地域総合医育成セン ター長
板井 孝一郎		教授	臨床倫理部長
永田 順子		歯科医師	口の健康発達ケアセ ンター長
鈴木 斎王		医師	患者支援センター長
児玉 由紀		医師	総合周産期母子医療 センター長
近藤 千博		医師	コミュニティ・メディ カルセンター長
小松 弘幸		医師	医療人育成支援副セ ンター長
榮 健文		医師	IVRセンター長
池田 龍二		薬剤師	薬剤部長
久保 敦子		看護師	看護部長
原 博文		事務職	事務部長
陪席			
山本 成郎		臨床検査技師	検査部技師長
小味 昌憲		診療放射線技師	放射線部技師長
竹ノ内 博之		臨床検査技師	輸血・細胞治療部技師 長
大野 招伸		衛生検査技師	病理部技師長
宮崎 茂明		理学療法士	リハビリテーション 部技士長
小田 裕一		臨床工学技士	ME機器センター臨 床工学技士
笹葉 啓子		管理栄養士	栄養管理部副部長

(様式 6-3)

奥村 学		薬剤師	副薬剤部長
小田 浩美		看護師	副看護部長
清水 志希子		看護師	医療安全管理部副部長
綾部 貴典		医師	医療安全管理部副部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有)
- ・ 公表の方法
大学ホームページに掲載

- ・ 規程の主な内容
 - 病院長は、本院の管理運営を総括し、所属職員を監督する。
 - 病院等は、本院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限を有する
 - 科長や部長等の任命権限
 - 科長及び副科長の解任権限

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副病院長 8 名（経営企画担当・医療情報担当・医療安全管理担当・教育研究担当・診療担当・地域医療連携担当・看護担当・事務担当）
 - 病院長補佐 6 名（薬剤部長・総務課長・管理課長・医事課長・総務医事課長・女性医師担当）

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
大学で管理者研修を実施している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	有
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 医学部附属病院における医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者等の業務の状況について医学部附属病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>② 委員会は必要に応じて、学長又は医学部附属病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるようよう意見を述べる。</p> <p>③ 委員会は上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有）</p> <p>・ 公表の方法： 本院ホームページ</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
後 信	九州大学病院 医療安全管理 部	○	医療安全管理有 識者	無	○
大久保 哲	宮崎産業経営 大学法学部		法律に関する識 見者	無	○
藤久保亜希	宮崎市子育て 支援センター		医療を受ける者	無	○
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

※大学の既存の部署（監査室）を充てることとし、監査室と協議予定。

- ・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ）
- ・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none">・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 ※既存の「経営協議会」を充てることとし、担当部署と協議予定 ・ 会議体の実施状況（年回）・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有・無）（年回）・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有)・ 周知の方法 大学ホームページに掲載

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構による、病院機能評価 (3rdG:Ver. 1.1) を平成29年12月4日から12月5日の期間で受審し、平成30年3月2日付けで認定された。	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・ 情報発信の方法、内容等の概要 特定機能病院としての役割について、病院のホームページ「病院概要」に記載している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 複数の診療科で受診が必要と判断した場合、コンサルテーションオーダを使用し他診療科と連携することで、柔軟な対応が可能な体制を整備している。 診療科の枠組を超えて、褥瘡対策チーム、がん診療チーム、緩和ケアチーム等を組織しており、医師だけでなく看護師や各スタッフが必要に応じて連携し、チーム医療を実践している。 手術後の合併症を予防するため、歯科口腔外科と各診療科が連携し、周術期の患者さんの口腔機能管理を実践している。	